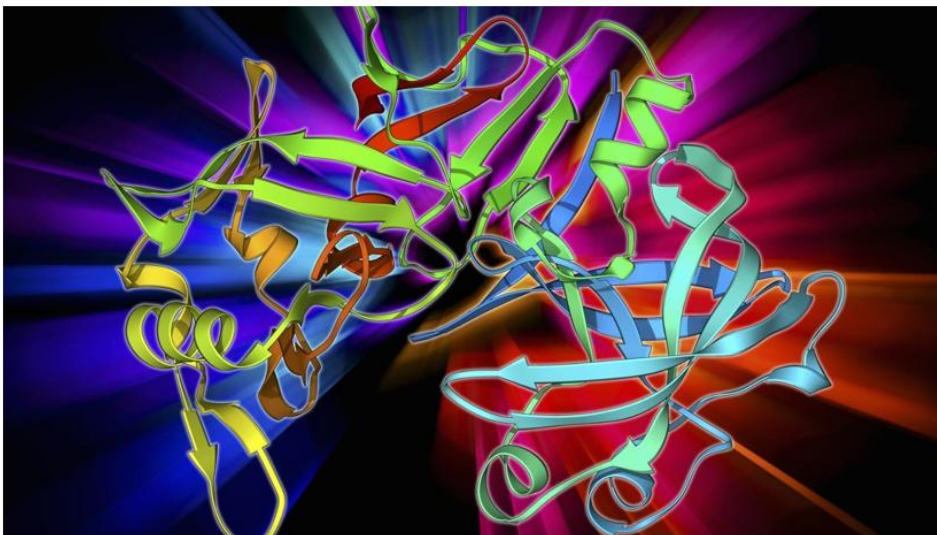


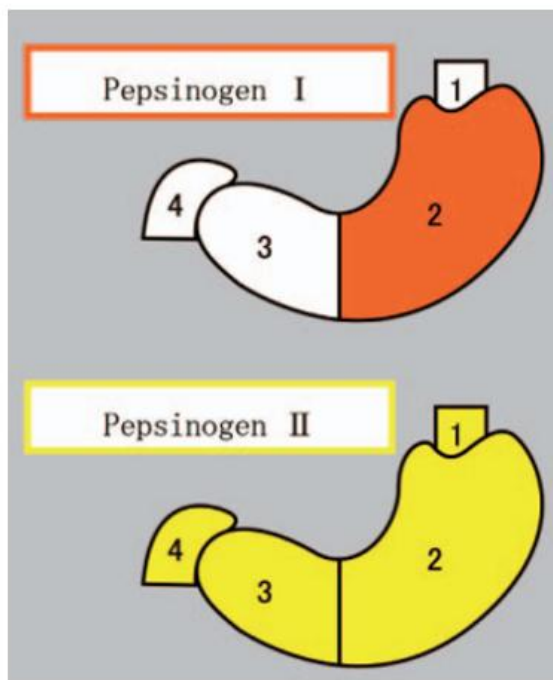
ペプシノゲン法とは

- **ペプシノゲン**は、胃で作られる蛋白質分解酵素**ペプシン**のもとになる物質です。



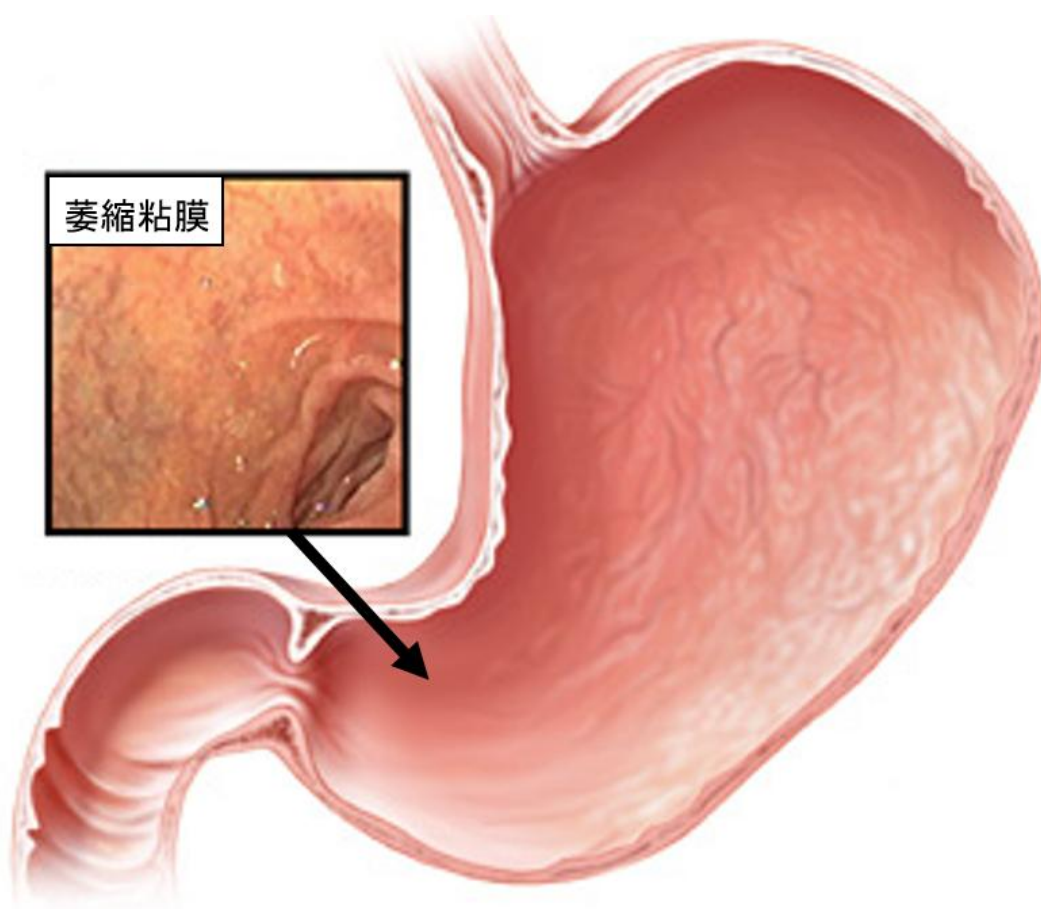
- **ペプシノゲン**は**ペプシノゲンI (PGI)** と**ペプシノゲンII (PGII)** に大別されます。

- **PGI** は主として胃底腺の主細胞より分泌され、**PGII** は胃底腺の他に噴門腺，幽門腺，十二指腸腺にも存在します。

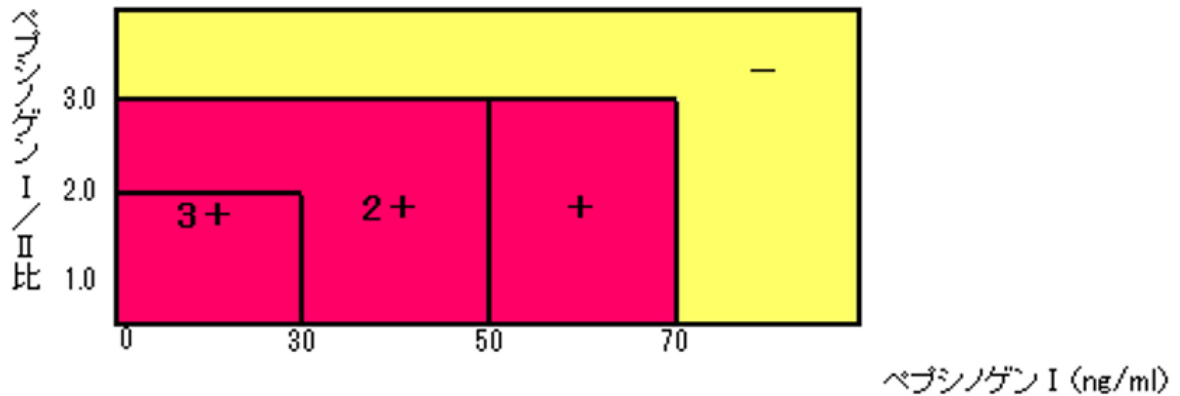


- 胃の粘膜の萎縮が進むと、胃底腺の領域が縮小していくため **PGI** の量が減ってくるようになります。 **PGII** のほうは胃全体から作られるため減少しません。

- そこで、PGI および PGI/II 比が低下した状態が萎縮性胃炎，即ち胃がんのリスクの高い群となります。



- PGI が 70 未満で、かつ、PGI/PGII 比が 3 未満（これを基準値とよぶ）を陽性とし、さらにその中を 1 +, 2 +, 3 + に分けます。



[PGI 70 ng/ml 未満かつ PGI/II 比 3 未満] を (1+)

[PGI 50 ng/ml 未満かつ PGI/II 比 3 未満] を (2+)

[PGI 30 ng/ml 未満かつ PGI/II 比 2 未満] を (3+)

検診でペプシノーゲン法が陽性の方は、
一度ご相談ください。

